

発行所

札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部同窓会  
TEL&FAX (011) 706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
http://hokudai-med-dousou.com

編集人 田中 伸哉  
発行人 浅香 正博

# 北大医学部同窓会新聞



## 「旅する氷」

松本 侑希保 (98期 医学科3年)

### CONTENTS

- (1) 医学部創立100周年の年を迎えて  
.....浅香 正博  
・年頭のご挨拶.....吉岡 充弘
- (2) 訃報 名誉教授  
児玉譲次先生 (36期) を偲んで  
.....渡邊 雅彦  
・訃報 名誉教授  
西 信三先生 (42期) を偲んで  
.....吉岡 充弘  
・先生ご無沙汰しています...加藤 絃之
- (3) Zoomアップ⑭  
北海道胆振東部地震を経験して  
.....方波見謙一  
・フラテ祭2018開催報告  
・フラテ105号発行のお知らせ
- (4) 北海道大学医学部創立100周年記念  
事業募金へのご協力のお願い
- (5) 緊急座談会  
“北大医学部生の国家試験合格率低下の  
対策を考える”
- (6) 理事会・評議員会報告  
・告知板  
・事務局からお知らせ
- (7) 新刊書紹介
- (8) 総会、新入会員歓迎会のご案内  
・医学部創立100周年記念事業  
記念グッズの販売について  
・北大医学部同窓会新聞縮刷版の  
発行について  
・北海道医学会からお知らせ  
・同窓会費の納入は口座振替で  
・同窓会費納入のお願い  
・過年度会費が2年を超える  
会費未納者と会員名簿の発送について  
・ご逝去者  
・一面の写真説明  
・編集後記

## 医学部創立100周年の年を迎えて

北海道大学医学部同窓会 会長 浅香 正博 (48期)

新年おめでとうございます。

北大医学部はいよいよ本年、創立100年を迎えます。100年という区切りは北大医学部にとってきわめて大きなものです。したがって本年は、北大医学部同窓会にとって最も重要な年になることは必定です。100周年記念行事のための寄付目標を10億円と定め、募金活動を続けて参りましたが、昨年9月現在ようやく3億円を越えたところであり、目標に達するにはまだまだの状況です。北大医学部百年記念館の着工が間もなくになってきており、100周年事業の完遂のためにも募金活動のペースを上げる必要があります。最も気がかりなのは北大医学部同窓生の寄付が余りに少ないことです。北大医学部同窓会新聞の9月14日発行の第161号に卒業期別寄付状況が掲載されていますが、多くの卒業期で寄付率が10%を切っており、全体の寄付率が10.2%であることに正直驚いております。この数値は90周年時の26.2%から見ても明らかに低い値であり、数年前に100周年を祝った慶應大学医学部や九州大学医学部から見ても信じられないくらいの値なのです。一部には企業などからの大口寄付金を期待する声がありますが、医学部創立100周

年行事の趣旨から言っても同窓生からの寄付が主体とならなければこの事業が成功したとは言えないのは自明です。北大医学部を支える目的で創立された北大医学部同窓会の底力を見せるのは今をおいてないと考えていただきたいと心より願っております。寄付応募期間の締めきりである2021年3月に向けて各卒業期の大幅な寄付率の上昇を期待して、これからも医学部と協力しながら様々な取り組みを行っていきたくと思っております。

いよいよ2019年が始まりました。昨年は全国的に自然災害の多かった年であり、最も安全であると信じていた北海道も9月に起こった胆振東部地震により大きな被害を受けました。道内全てがブラックアウトになった衝撃からそう簡単に抜けきれものではないようです。今年は自然災害が起こらないことを祈るしかありません。

最後になりますが、北海道大学医学部同窓会会員の皆様方のご健康並びにご多幸を心からお祈りし、年頭のご挨拶といたします。

## 年頭のご挨拶

医学部長・医学研究院長 吉岡 充弘 (60期)

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては元号が改まる新年をつつがなくお迎えのこととお慶び申し上げます。

1919年(大正8年)4月1日に北海道帝国大学に医学部が置かれ、今年で100周年を迎えます。これまでの一世紀に渡る歩みを振り返り、次の100年への大いなる発展の契機とすべく医学部同窓会と教授会は創立100周年記念事業を遂行するため、「北海道大学医学部創立100周年記念事業実行委員会」を編成いたしました。同窓会会員の皆様には複数回にわたり趣意書を差し上げ、本記念事業の概要を説明申し上げるとともに寄附のお願いをさせていただきました。なかでも「北海道大学医学部百年記念館」は、記念事業実行委員会が事業の最重点事業として位置づけ、その建設に向け現在鋭意尽力しているところです。木造2階建て、延べ面積745㎡、総工費3億6千万円の新営工事が雪解けとともにスタートする運びとなっており、工期は8月末を目途としています。竣工のあかつきには同窓会会員の皆様の情報交換の場として、大いに利用していただきたいと思っております。

また、記念事業のもう一つの柱である「教育研究基金」の創設については、大

学運営の基盤である運営費交付金の減額が続く中、我々の使命である「医学・医療の発展に貢献するリーダーの育成」と「新たな知の創造」に資するものと位置付けております。この「教育研究基金」の創設には更なるご支援が必要となります。そこで、実行委員会は学外の識者を中心とする後援会の設立を図ることとしました。2017年1月に北海道大学医学部創立100周年記念事業への後援会設立総会が挙行され、医学部同窓会長の浅香正博先生(北海道医療大学長)に会長をお引き受けいただき、同窓会のみならず学外からもご支援をいただく体制を整えてまいりました。

記念式典につきましては、「新たな100年への知の挑戦(仮題)」をコンセプトとし、本年10月12日(土)に開催すべく準備を進めております。また、一世紀にわたる軌跡を記載した記念誌の発行については、この記念式典の模様も記載することから、来年初頭の発行となる見込みです。

これらの事業は皆様のご支援なくして成功は望めません。事業の成功に向けて更に努力していく所存です。新年が皆様にとりましてすばらしい年となりますことをお祈り申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。



### 訃報 名誉教授 児玉讓次先生(36期)を偲んで

解剖発生学教室 教授 <sup>わたなべ</sup> <sup>まさひこ</sup>  
渡邊 雅彦(会員2)

北海道大学名誉教授児玉讓次先生は、平成30年9月27日に83才で逝去されました。

児玉先生は、解剖学第2講座の第2代教授児玉作左衛門先生の四男として昭和10年2月25日に誕生しました。昭和35年北海道大学医学部を卒業し、附属病院において1年間の実地修練をした後、昭和36年に医学研究科に進学し解剖学第2講座で解剖学を専攻しました(主任：伊藤昌一教授)。昭和40年、「ヒト蝶形骨

のpresphenoidの発生学的研究」により医学博士の学位が授与されました。その後、同講座の助手(40年)、講師(41年)、助教授(43年)を務め、昭和46年に第4代教授に就任されました。親子で同じ講座の教授に就任するのは世界的にも稀なことです。

児玉先生の主な研究テーマは「ヒト胎児頭蓋の形態発生学的研究」で、ヒト胎児頭蓋約1000例を収集し、頭蓋の分解晒骨標本ならびに非分解標本晒骨

標本を作製し、発生にともなう骨成長、骨核数、骨融合などについて、特に後頭骨上部のインカ骨の発生機序や蝶形骨の骨核発生過程などを中心に研究調査を行いました。平成5年には会頭として第98回日本解剖学会学術集会を北大キャンパスで開催し、平成10年に定年退職されました。これらの学術業績に対して、平成8年に北海道医師会賞ならびに北海道知事賞、平成28年には瑞宝中綬章を受賞・受章されております。

児玉先生は、篤志献体の会である北海道大学白菊会の設立にも尽力されました。伊藤先生と児玉先生は、昭和38年に全国組織である白菊会の北海道支部として活動を開始し、解剖学第二講座(現・医学研究院解剖発生学教室)に事

務所を置き、2名の会員でスタートしました。その後、児玉先生と井上芳郎先生らが道内各地で行った篤志献体の啓発活動により、会員数は徐々に増えていきました。昭和61年に支部から独立して北海道大学白菊会が誕生し、現在では2000名を超える会員を持つ大きな組織へと成長しています。北海道大学白菊会は、医学部・歯学部学生の解剖学教育の充実に多大な貢献をするともに、最近では外科手術手技研修による医師・歯科医師の卒後教育にも重要な役割を果たしています。

ここに謹んで児玉先生のご冥福を心よりお祈りいたします。



### 訃報 名誉教授 西 信三先生(42期)を偲んで

医学研究院長・医学部長 吉岡 充弘(60期)

名誉教授 西 信三先生が、平成30年10月11日に逝去されました。享年77歳でした。先生は昭和35年4月に北海道大学医学部(当時は医学進学課程)に入学され、学生時代は山岳部に所属し、特に教養時代は山登りに傾倒され、山岳部の主任幹事まで務められておりました。医学部卒業後は北大病院での1年間のインターンの後、大学院(生化学第一講座)に進まれました。当時、生化学第一講座は平井秀松教授が講座を

主宰されており、平井先生の指導の下、助手、講師として研究および教育に14年間従事されました。1年間の米国留学後、新設国立医大であった山梨医科大学に助教授として3年間生化学教室に務められ、昭和58年10月1日に教授として母校へ戻られました。

先生は大学院生時代から一貫して肝臓がんと関連が深い $\alpha$ -フェトプロテインの研究に没頭され、その研究成果が“Cancer Research”に単著で掲載され、

先生の学位論文となりました。その際、研究者としての達成感や醍醐味を享受できた最初の瞬間であったと退職時の挨拶で述べられております。

管理運営面では、平成13年4月から平成17年3月まで、研究科長・医学部長を務められております。先生の功績としまして、学士編入学制度の導入、修士課程ならびに保健学科の設置が挙げられます。また、平成16年に国立大学が法人化され、その対応等に追われていたところに、いわゆる「名義貸し問題」が表面化し、その調査と厳格な対応が求められ、多くの難題を抱えることとなりました。また、新たな仕事として法人化後の大学評価・授与機構による大学評価への受審準備等が加わり、い

ずれも容易な仕事ではありませんでしたが、先生は一切ぶれることなく粛々と対応し、乗り越えられました。小職も当時、教育担当副研究科長として何もできず、ただただ先生の尽力される姿を拝見しておりました。

国立大学法人化による大学改革のうねりの中、卓越した指導力を発揮され、難局を乗り越え、医学部発展の基盤を構築されました。こうした数々の業績により、平成3年北海道知事賞、北海道医師会賞を受賞されております。

お酒と山をこよなく愛し、典型的な巨人ファンであった西 信三先生の生前のご功績を偲び、ここに謹んで哀悼の意を表します。

## 先生ご無沙汰しています



名誉教授 <sup>かとう</sup> <sup>ひろゆき</sup>  
加藤 紘之  
(43期)

#### 始めに

“こちらこそご無沙汰ばかりで…”

皆さん今日は、同窓会新聞をいつも楽しく、懐かしく拝見しております。この度は執筆の機会を与您にいただき誠にありがとうございます。

平成16年3月に定年退官後、早くも14年が過ぎました。本稿では退官後の事など思いのまま筆を進めて参ります。

#### 第二の人生

“老朽化病院の再建”

63歳の退職時に与えられた運命は、ほぼ廃院が決まっていた斗南病院への赴任でした。47年を経たかつての名門病院も老朽化が著しく職員は失職の危機の中で絶望感の中にあり、他組織も入り込んだ組合運動の真っ最中にありました。累積赤字が33億円にもなっていて、これを返却できなければ新築なんてあり得ないとの本部決定がなされていたことを後に知りました。

私はここで外科医としてのメスをおき、病院再建に傾注する決意を固めました。

経費削減で給食の質は落ち、ご意見

箱に多くの投書が寄せられていましたので、早速、栄養士さん、おばさんたちと話し合い、1日100円の値上げを提案したところ、涙を流し喜んでくれました。掃除のおばさんには優しく部屋を綺麗にしてあげてね、と何度も頼みました。外に出していた薬も中の薬局に戻し、丁寧な説明と笑顔を呼びかけました。検査の外注もその多くを院内に戻し、新型のCTを購入するなどの交渉を粘り強く進め、それらが一つ一つ実現していくと職員に笑顔と活気が戻ってきたのです。

とても有難かったのは、北大と札幌大の教授はじめ、スタッフが私の必死のお願いに耳を傾けて下さり、意欲溢れる医師の派遣を次々と決めてくれた事です。やがて患者さんから、病院は古いけどお医者さんや看護師さんが優しいとの口コミが広がり、赴任後7年間で累積赤字を解消し、その後の3年間で新築の許可が出ました。

移転先の決定にも北大はじめ道の全面的支援が得られ、現在地に新築、移転する事が出来ました。10年間の病院長職の後、5年間の顧問を務め、本年3月をもって全ての任務を終わります。第二の人生としてはちょっときつかったですが、大学時代とは一味違った充

実感に満ちた日々でした。研修医が常時、10数名います。良医の育成機関としての発展を願っています。

#### この頃の仕事

“医療事故事例に対する意見書の提出”

数年前から北海道・東北の重大医療事故事例に対し保険会社、裁判所から意見書の提出を求められる事が多くなってきました。いずれも双方にとって重く、一刻も早く逃れたい事例ばかりです。どちらかに片寄ることなく、現時点での標準的医療を基準に文献を添えてまとめていきますが、40数頁に及ぶ意見書の作成には責任と身に沁みる思いがあります。これまで約40件手掛けましたがフォローしていきますと和解内容、あるいは裁判所の結審はほぼ私の意見と一致しています。同窓会諸氏にはこの避けられない状況に出会った場合、“逃げない、隠さない、二度と起こさない”の原則を今一度思い起こして頂ければ幸いです。北大病院の医療安全監査委員を仰せつかってはいますが、さすがのレベルに感服しております。

#### これからの生き方

“若返りは可能か？”

78歳になった今、日常生活の中に時間的余裕を与えていただきました。ほぼ毎日、子供部屋に設けた筋トレルームで若返りを図っています。約1時間かけて汗をかくと爽快です。藻岩山に年間20回以上登ります。

孫の所属する少年野球チームのコーチをしています。猛ノックを浴びせています。写真は可愛い子供達と撮ったものですが、G(爺)コーチと呼ばれています。虹鱒釣りによく出かけますが、一人で清流の中の魚と会話する時、心が洗われます。時間の余裕は食事改革を可能にしてくれました。朝は果物、野菜をスムージーにかけてたっぷり飲み、昼はチーズトーストとバナナ、ナッツ、夜は同期結婚の家の腕を凝らした手料理を味わいます。

これからの生き方の指針を決めました。“自然に戻る、家族のもとに帰る、そして友と共に語る”です。友とは先輩、後輩に拘わらず心から語り合える方々です。平野教授はじめ教室の皆さんが年2回、我が家のテラスでスライドを交えたフロンティア・リサーチ・メモリアルを開催してくれます。生きていることって本当にありがたいなあと思える時の推移です。

#### 終わりに

“学び舎は遠くにありて想うもの”

同窓の皆様近況を聞くたびに懐かしさが蘇ってきます。ご健勝とご発展を心からお祈りしております。



# ズームアップ⑭ 北海道胆振東部地震を経験して



北海道大学病院 先進急性期医療センター 方波見 謙一(82期)

## これまでの北海道大学病院の災害対策

北海道大学病院は、先進急性期医療センター部長丸藤哲先生のご尽力で2003年に北海道災害拠点病院に指定された。その後、同センターが中心となり災害対策マニュアル策定と改定、災害医療訓練、CBRNE訓練、緊急被ばく医療訓練を定期的実施して来たが、その努力は病院が一体となった2011年東日本大震災への数ヶ月に渡る医療救護班派遣として結実した。2015年に寶金清博病院長の命を受けて同センター副部長澤村淳先生を本部長とした災害対策作業部会が立ち上がった。作業部会は災害対策の問題点の整理・改善を進め、2016年熊本地震へDMAT(Disaster Medical Assistance Team)を派遣するなど実績を上げている。

大規模災害時に北海道大学病院が果たすべき社会的責任は非常に大きい。昨今の繰り返される自然災害を鑑みるに、北海道大学病院の全職員が災害への心構えを平時から持ち、有事に備えた訓練を繰り返す必要がある。

## 2018年9月6日北海道胆振東部地震 概要

2018年9月6日午前3時7分に、北海道胆振地方中東部を震源としたM6.7、震源の深さ37kmの地震が発生した。最大震度7を記録し、政令指定都市札幌でも震度6弱を記録する地域があった。北海道大学病院は同日5時10分に寶金清博病院長を本部長とした災害対策本部を立ち上げ、5時20分に多数傷病者を受け入れる方針を決定、5時57分には通常診療の中止を判断した。災害対策本部の立ち上げから翌日までに、院内全職員の協力で重症患者18名、中等症患者16名、軽症患者201名の対応を行った。さらに、医療救護班を甚大な被害を被った鶴川厚生病院へ派遣した。

今回の地震災害の特徴は、札幌市内では直接的被害は少なく、多数の傷病者および被災者は発生しなかったが、

発災直後より生じた全道広域にわたる大停電により様々な問題が生じた事である。

## 停電が残した課題

北海道大学病院は発災直後に自家発電に切り替わり3日間維持可能であったが、電力に余裕がなく通常診療、検査、手術などは実施困難となった。札幌市内の病院では自家発電が数時間しかもたない施設もあり、人工呼吸器装着患者や透析患者への早急な対応が必要となった。さらに、多くの病院は一般診療が不可能となり、急病患者対応や出産対応などが出来ない事が判明した。在宅医療の現場でも、在宅酸素療法施行中、あるいは人工呼吸器装着患者など生命の危機に瀕する多くの患者の存在が明らかになった。今回は早期に電

力が復旧し窮地を逃れた。しかし、長期化する場合への早急な対応策を、北海道大学病院および医療関係者・施設のみならず行政を加えて検討する必要がある。

## 将来へ向けて

胆振東部地震は「災害は身近にある」事を北海道大学病院に教えてくれた。さらに、多くの問題点が浮き彫りとなり改善すべき課題が明瞭になるといふ貴重な教訓を得た。この経験を活かし、今後の災害対策を北海道大学病院全職員で充実させて行く事を心から期待している。

最後に、今回の震災時に災害対応にご協力いただいた全ての北海道大学病院職員に感謝申し上げます。



発災直後院内災害対策本部の様子



発災からの活動の記録(クロノロジー)

# フラテ祭2018開催報告

## フラテ祭実行委員会事務局

去る9月30日(日)、第12回目となる「フラテ祭2018」は北海道大学ホームカミングデーと同日に開催いたしました。同窓生、教員、学生親族、関連企業の方々など約90名が参加されました。

第1部の施設・キャンパスツアーでは、「医学部施設巡り」「キャンパス巡り」の2コースを設けました。医療施設や教室の見学・広大なキャンパスをバスにてご案内し、どちらのコースも皆様に楽しんでいただきました。

第2部の講演会では、吉岡充弘医学部長が「北海道大学医学部・医学研究院

の目指すものー現況と展望ー」、寶金清博北海道大学病院長が「北大病院の先進医療ー臨床研究中核病院・北大病院ー」、阿部弘北海道大学名誉教授が「医療に国境はない」と題してご講演いただきました。

その後、第14回音羽博次奨学基金授与式が行われ、7名の学生に奨学基金が授与されました。

第3部のフラテ交歓会では、医学部公認団体アンサンブル・フラテによる演奏と合唱で「校友会歌」「都ぞ弥生」が披露され、浅香正博同窓会長の祝杯に

より開宴されました。医学部生による弦楽四重奏の演奏の中、和やかに歓談し、医学部生による活動報告では、参加者の皆様が興味深くご覧になっていました。最後に、参加者全員で「都ぞ弥生」を合唱し、寶金清博北海道大学

病院長のご挨拶にて閉会されました。

今年度も多くの方のご支援とご協力をいただき、無事にフラテ祭を終えることができましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。



第2部 特別講演 阿部弘名誉教授



第3部 交歓会の様子

## フラテ105号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の暖かいご支援により、昨年発行の104号も大変ご好評をいただきました。

さて我々フラテ編集部では、今年3月上旬発刊予定のフラテ105号発行に向けて準備を進めております。購読をご希望の方は、同封の振込用紙にてお支払いをお願い致します。注文および支払方法を、郵便振込みによる前払いとさせていただきますことにご理解をお願い致します。在校生につきましては、4月上旬にフラテを一部ずつ配布致しますので、別途お振込は必要ございません。

また、当編集部には104号以前の残部もございます。ご希望の方は、105号をお申し込みの際に、振込用紙にその旨をお書き添え下さい。別途、送らせていただきます。

なお、フラテの申し込みは10月と1月の2回のほか、104号巻末の払込用紙においても受け付けております。**すでに104号巻末の振込用紙にて申し込まれた方、10月の同窓会新聞に同封致しました振込用紙にて申し込まれた方は今回申し込みをなさらないようご注意ください。**

また、同窓会新聞や同窓会費についてのお問い合わせは同窓会 (011-706-5007)

へご連絡をお願い致します。

<105号の主な内容(予定)>

- ・特集記事 「国試の現状と北大の取り組み(仮)」
- ・フラテ各地に行く～新潟編～
- ・教室便り(医学部の各教室のご紹介)
- ・新任教授(4名)インタビュー
- ・みどりのベンチ 北海道大学病院放射線診断科 タ・キンキン先生インタビュー
- ・フラテ茶苑(先生方の御寄稿文)
- ・学生の広場(学生の寄稿文)など

【フラテ106号「茶苑」寄稿者募集】

フラテ茶苑では、ご卒業の先生方からの御寄稿文を掲載しております。学生も多く読んでおり、学年を超えた交

流の場となっております。原稿執筆を希望される先生は、下記宛に原稿をお送りください。また、写真や図などございましたら、そちらも併せてお送りください。  
○内容:自由(学生時代のお話、専門分野のお話、趣味のお話など)  
○形式・字数:自由  
○〆切:2019年11月末日  
今年度も沢山のご寄稿をお待ちしております。

**<お問い合わせ先>**  
 フラテ編集部  
 TEL/FAX 011-736-1444(留守電あります)  
 E-mail:frate.med@gmail.com  
 〒060-8638  
 札幌市北区北15条西7丁目  
 北海道大学医学部内 フラテ編集部

# 北海道大学医学部創立100周年記念事業募金へのご協力をお願い

北海道大学医学部は、今年創立100周年を迎えます。この記念すべき年を祝い、次の100年に向けてさらなる発展を期すため、北海道大学医学部百年記念館の建設を柱とする記念事業の実施を目指し、現在着実に準備を進めているところです。

同窓会の皆様をはじめとする関係各位におかれましては本事業の趣旨をご理解いただき、格別のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附いただいた皆様には、北海道大学医学部の教育研究にご貢献いた

いたことを末永く記録に留めるため、寄附総額に応じた銘板にご芳名を刻印し、北海道大学医学部百年記念館へ掲示させていただく予定です。

募金要綱につきましては、「北海道大学医学部創立100周年記念事業基金募金趣意書」に記載しております。

趣意書につきましては、以下の方法で取得いただけます。

- ①ウェブサイトからのダウンロード  
北海道大学医学部創立100周年記念事業ウェブサイト  
(<http://www.med.hokudai.ac.jp/100th/>)

- からダウンロードいただけます。
- ②メールまたはお電話によるご請求  
医学系事務部総務課庶務担当  
(E-mail: [shomu@med.hokudai.ac.jp](mailto:shomu@med.hokudai.ac.jp))  
電話: 011-706-5085  
までご連絡ください。趣意書を郵送にてお送りいたします。

また、クレジットカード決済によるご寄附のお申し込みについては、北大フロンティア基金ホームページ「寄附申し込みフォーム」からお手続きいただけます。

(<https://www.hokudai.ac.jp/fund/projects/detail.html#fund10>)

北海道大学医学部創立100周年記念事業実行委員会  
募金活動小委員会委員長 吉岡 充弘

(問い合わせ先)  
北海道大学医学系事務部総務課庶務担当  
TEL/FAX: 011-706-5086/011-717-5286  
E-mail: [shomu@med.hokudai.ac.jp](mailto:shomu@med.hokudai.ac.jp)

## 北海道大学医学部百年記念館に掲示する銘板の種別

種別	寄附総額		銘板
	個人	法人・団体	
フラテダイヤモンド功労賞	1,000万円以上	3,000万円以上	ゴールド(大サイズ)
フラテゴールド功労賞	500万円以上	1,000万円以上	ゴールド
フラテシルバー功労賞	100万円以上	500万円以上	シルバー
フラテブロンズ功労賞	20万円以上	100万円以上	ブロンズ

## 寄附金納入状況

2018年10月31日現在

寄附金合計	329,031,447円	
○教員	166件	36,410,000円
○医学部卒業生	459件	136,994,352円
○病院・企業等	89件	110,985,000円
○その他(講座等)	2件	17,803,636円
○その他(同期会)	5件	8,628,459円
○その他(個人・団体)	68件	18,210,000円

## 同窓会卒業期別寄附状況

2018年10月31日現在

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
18期	1	0	0%	0	0
19期	1	1	100%	0	100,000
20期	4	0	0%	0	0
21期	2	0	0%	0	0
22期	5	0	0%	0	0
23期	8	1	13%	0	200,000
24期	7	1	14%	0	1,000,000
25期	18	2	11%	1	658,430
26期	8	0	0%	0	0
27期	12	3	25%	0	620,000
28期	25	7	28%	0	2,550,000
29期	22	6	27%	0	1,510,000
30期	42	7	17%	0	1,120,000
31期	27	1	4%	1	645,029
32期	32	5	16%	0	325,000
33期	40	7	18%	0	3,500,000
34期	46	6	13%	0	1,950,000
35期	50	20	40%	0	16,500,000
36期	51	8	16%	0	2,750,000
37期	61	12	20%	0	5,100,000
38期	58	8	14%	0	920,000
39期	56	14	25%	0	3,400,000
40期	53	16	30%	0	6,002,000
41期	67	25	37%	1	15,050,000
42期	66	47	71%	1	5,245,000
43期	53	13	25%	0	8,440,000
44期	79	18	23%	0	7,160,000
45期	63	8	13%	0	1,310,000
46期	80	38	48%	12	6,500,000
47期	78	8	10%	0	6,000,000
48期	75	15	20%	0	18,513,636
49期	94	6	6%	0	850,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
50期	89	7	8%	0	4,710,000
51期	101	8	8%	0	2,500,000
52期	86	6	7%	0	2,000,000
53期	80	7	9%	0	1,650,000
54期	103	10	10%	0	2,510,000
55期	109	16	15%	0	8,570,000
56期	105	15	14%	0	3,160,000
57期	124	14	11%	0	2,900,000
58期	98	8	8%	0	1,900,000
59期	124	9	7%	0	1,270,000
60期	116	29	25%	0	6,800,000
61期	100	8	8%	0	1,882,000
62期	115	5	4%	0	720,000
63期	104	7	7%	0	1,020,000
64期	113	9	8%	0	1,729,352
65期	117	8	7%	0	860,000
66期	115	14	12%	0	2,250,000
67期	106	25	24%	0	3,350,000
68期	101	8	8%	0	10,640,000
69期	105	8	8%	0	1,340,000
70期	96	4	4%	0	560,000
71期	91	5	5%	0	910,000
72期	80	8	10%	0	872,000
73期	82	8	10%	0	855,000
74期	84	5	6%	0	530,000
75期	81	6	7%	0	810,000
76期	78	5	6%	0	610,000
77期	64	1	2%	0	50,000
78期	71	9	13%	0	1,100,000
79期	84	7	8%	0	750,000
80期	87	2	2%	0	300,000
81期	62	5	8%	0	800,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
82期	66	2	3%	0	300,000
83期	67	4	6%	0	279,000
84期	67	6	9%	0	480,000
85期	68	1	1%	0	50,000
86期	64	0	0%	0	0
87期	59	0	0%	0	0
88期	59	1	2%	0	50,000
89期	81	2	2%	0	250,000
90期	71	0	0%	0	0
91期	96	0	0%	0	0
92期	83	1	1%	0	10,000
93期	81	0	0%	0	0
94期	87	1	1%	0	10,000
会員(2)	149	23	15%	0	11,350,000
専1	1	0	0%	0	0
専2	2	0	0%	0	0
専3	3	0	0%	0	0
専4	3	1	33%	0	120,000
専5	16	3	19%	0	920,000
専6旧	26	2	8%	0	300,000
専6新	5	0	0%	0	0
専7旧	29	1	3%	0	100,000
専7新	16	1	6%	0	1,000,000
樺太	1	0	0%	0	0
計	5,555	638	11.5%	0	203,046,447

(参考)  
医学部創立90周年における同窓会からの寄附状況(2010年3月末)

全体数	寄附者数	寄附率
6,272	1,656	26.4%

※2018年10月31日現在まとめ ※全体数(住所判明者): 故人は除く/海外在住者除く(平成29年度同窓会データより) ※法人(代表者が同窓生)は除く

# 緊急座談会 “北大医学部生の国家試験合格率低下の対策を考える”

2018年11月29日 於 腫瘍病理学教室図書室

主催：北大医学部同窓会新聞編集委員会

出席者：田中伸哉 (66期、同窓会新聞編集委員長)、久住一郎 (60期、医学部教務委員長)、四宮 万里絵 (94期、6年生)、高田莉央 (94期、6年生)、宮岡 慎一 (95期、5年生)、塚原 隆之 (仮) (95期、5年生)、春日 優介 (96期、4年生)、GOH Ken Wee (97期、4年生)、野田 暉翔 (98期、3年生)、中駄 勇太 (99期、2年生)



田中：編集委員会で、北大の国家試験合格率低下の現状とそれを改善しようという取り組みについて座談会を開催しようということとなりました。学生さんには北大医学部の学生教育について、遠慮なく発言してほしいと思います。まずは教務委員長から具体的な方策について教えていただけますか。

久住：入学時全国TOP10に入る北大の学生が国試ではなぜワースト10に入る合格率なのか、さすがに納得できないですね。学生は優秀なはずなので、やはり教官が悪いのでは、という話にもなりかねません。なぜこのようなことになっているのか、見直すべき制度が多々ありました。「教養コース」では卒業するために53単位取らなくてはなりません。それは普通に取ると不可能で、長期休暇等も利用する必要があります。他学部では全て卒業要件は46単位でしたので医学部も46単位に変更しました。また、医学部への進級要件が32単位ですから、多くの学生が教養コースの単位を取り残して医学部に進級してきます。現在、北大医学部では、医学教育の国際認証を受けるために臨床実習を増やさざるを得ず従来52週であったものが75週と増加しています。臨床実習が始まるのが早まったために、基礎医学コースが圧迫されて、2年生からぎゅうぎゅう詰めのカリキュラムになっていて、教養コースの取り残しと同時に医学部の基礎医学科目を履修することは極めて困難な状況になっています。臨床医学コースに移行するときには、多くの単位を落とした「多重債務状態」になってしまうケースが多発しています。そこで、厳しいようではありますが、46単位を取り切れなかった場合には「進級留め置き」として、教養コースを終了してから専門科目に進むことにしました。

中期的対策を講じるにあたり、各大学の教務委員長・医学部長に実情を聞き、北大の国試の成績が悪い理由を探ったところ、「国試対策」を大学として全くやってないのは北大だけであることがわかりました。具体的にはCBTと国試の成績の相関をどの大学でも重要視しており、CBTの基準点を上げることがわかりました。北大の不合格者のデータを解析してみると、やはりCBTおよびGPAと国試の成績がほぼ相関していることがわかったので、今年からCBTの基準を65%から70%に上げました。さらに6年生には模擬試験受験料を補助することとしたところ、本年はほとんどの学生が受験しました。さらに予備校の出張講義にも予算をかけて、先日実施したところで。

野田：3年生ではちょうど今臨床統合科目が始まり、来年にはCBT、ということですが、最近変わったなと思うところは、予備校の映像授業を受ける人が増えてきて、授業には出てくるのですが講義は聞かずに映像授業に耳を傾け授業を消化し、出席票だけを出し、試験直前にパッとレジュメを見て試験をパスする、という傾向です。学生にとっても先生にとっても講義の時間が無駄です。授業にもっとCBTや国家試験の

過去問等を取り入れていただいたら、こういった傾向も軽減されるのではないかと思います。

春日：講義の内容について、各先生方は自分の専門分野、得意分野について話される傾向があり、正直のところ基礎がわかってない段階でそのような話は到底理解できません。15回の講義があったら、最初の10回はコアカリキュラムに沿った講義として、そこからはみ出ない基礎的な内容を講義していただき、残り5回で発展的な内容を話す、というように基礎と応用を明確に分けていただきたいと思います。

田中：講義全体に一貫性・計画性がない、ということですね。

春日：そうです。先生によって国家試験を意識するか否かの点で、講義のスタンスが異なり、講義の目標が一本化されていないということが大きな問題と考えます。

GOH：私の意見も春日君に似ていますが、昨年の臨床科目を受けた感想として、1講目から細かな疾患の治療法の話ばかりが出てくるなど、システマティックさに欠けます。順番の工夫を考えていただきたいです。

塚原：私はなぜ「医師国家試験予備校」があるのか、なぜ授業で国家試験の内容をカバーできていないのかが疑問でした。学生として、なぜ予備校にお金を払う必要があるのか、学校で習うべきものではないのでしょうか。一方で、働き手としての視点では、先生方は当然診療業務もあり、日常業務の中で授業を準備し、試験を作成しそれを評価するということは大変だと思います。今の業務を減らさないかぎり厳しいのではないかと、教員に同情するところもあります。

田中：医学部の教員の仕事には、研究、教育、診療3つがありますね。

高田：今年の改善点に加えてもう一つ挙げられるのは卒業試験です。6週間くらい毎日試験、という生活をしていたのですが、かなり厳しくて、毎日あるとどうしても1教科1教科を丁寧にやるのは不可能で、「前日に無理やり詰め込む」の繰り返しになってしまい、身になる勉強ができません。札幌医大では、短時間で国試形式でやるという話も聞いたので、そのほうが良いと思いました。

春日：実際に、卒業試験の勉強はあまり身にならないと感じている先輩方が多かったように伺っていますけども、やはり勉強の仕方が、疾患の知識を覚えるというよりは、過去から出題のクセをつかむ、という感じですか。

高田：試験問題について、終了後問題を回収されてしまうことがしばしばあります。解答を公式に配布し、解説まで配ってくれる科もあるのですが、その一方で問題まで回収されてしまうと、わからなかった問題があっても復習する手段がなくなってしまいます。せっかくやるのであれば、問題は回収せず、かつ簡便なものでも解説を配布していただけたら、学習しやすいと思います。

宮岡：教員間のしくみとして、各科の試験問題を診療科間で共有できればよいと思います。循環器内科の出題を、呼吸器

内科の先生方が見ることができるとい風に。現状出題は各科内で完結しており、他の科の先生が確認することはできないため、問題が重複してきて学習しにくい状況です。

四宮：私たちの代からAdvanced-OSCEなどの新しい試験が6年次に追加され、試験の絶対数は増えているので、試験時期をより早めて、早めに国試勉強にシフトするか、卒業試験を6年次に戻して、内容を国試よりにするのどちらかが良いのではないかと、思います。

田中：Advanced-OSCEも将来全ての大学に課せられる予定ですので、その「先取り」ということで北大でも今年から開始されたものですね。

久住：はい、今年と来年がトライアルで、その次の年から4年次のOSCEと同様に全国の大学が参加して標準点を算出することになりそうです。将来的には国試に実技試験を導入する準備として考えられています。卒業試験をどうするか、については改革案でもかなり議論がなされ、結局継続審議になっており、皆さん同様の議論をしています。

田中：いろいろなポイントを挙げていただきましたが、札幌医大の学生さんと話すと、うちでは集団でやる流れができていて、北大生は個人プレーでしょ、といったことを言われます。今は国試に向けて勉強会などやらないのでしょうか。

久住：これは私も、教務委員長になってから学生さんの話を聞くと、勉強会をしないのが当たり前と聞きました。しかし予備校の出張授業を聞くと、グループ学習を盛んに進めていました。各々で受講するのは結構なのですが、わからない問題が出てきたときに、それを互いに相談する、教えあうことで勉強になるし、グループでいたほうが、後れを感じて焦りを感じる、その緊張感が良いそうです。皆さんはどうですか。

四宮：確かに自習室は与えられてその中でやってはいるのですが、その中でどのような形で勉強するかについては、各自自習室のカラーが出ます。私の所属している自習室では比較的相談したり、会話の多い自習室だとは思っていて、しゃべっている内容が耳に入ってくるとそれは勉強になるし、全く間に合っていないところだったりすると焦る。久住先生もおっしゃる通り良い刺激になっています。

塚原：10年目のある医師とお話する機会があったのですが、先生もやはり「のんびり」ということをあげていました。

久住：そのとおりですね。学生と話していても、そんなに危機感を持っていないということが多くて。もっと焦ってもよいのではないかと。よく言えばおおらかなのでしょうか。

田中：CBT不合格者と全局面談したのですが、今年不合格者6人のうち、5名はやはり焦りが足りず、9月に試験なのにお盆過ぎから頑張るつもりだったとか、のんびりしすぎていたようです。

塚原：国家試験合格率の低さを考えたときに、各学年やコースの進級要件があまいという気がしますが、厳格化の措置を取ろうというお考えはありますか。

久住：北大の学生は火が付けばがっつりやるのだけど、なかなか火がつかないのは進級要件が低いから、ぬるま湯体質になってしまっていることも一因です。教官とのなれ合い、とも言えますね。進級を厳しくするには、教官のほうも厳しく当たる必要があります。過去問と同じ問題を出して、とりあえずパスさせてしまう。教官の意識改革が必要とも思います。教授会の意識も変わってきています。この流れが教授会だけでなく各教室の教員にももっと浸透していけばいいと思います。教官と学生との間の緊張感、それは授業の質であれ問題の質であれ、お互いに高めあっていければ、最終的には良い結果に行くのではないかと考えています。

中駄：緊張感という意味では、やはり1年生の時に多くの人が「野放し」状態の中で緊張感を持って取り組んでいる人はほとんどいない状況で、そこから急に専門が始まって急に緊張感を取り戻すのは難しいと考える。1年時にも緊張感を維持できるスタイルを作っていければよいですが、1年から少しずつ専門が始まればまた変わるかなというようにも思います。

久住：それはご指摘通りで、臨床実習に基礎医学が圧迫されている中で、以前から1年時に科目を降ろしたいと考えていたのですが、全学教育がそれを認めてくれず、交渉を重ねていたのでそれがそれも許可されて、「要望科目」という形で申請しようやく認められました。具体的には「遺伝学」と「医学概論」が1年時に降ります。

田中：あつという間に1時間半が経ち時間となりました。

久住：いろいろな意見を聞くことができ、非常に参考になりました。すぐにできそうなことから、なかなか難しそうなお話まで色々話していただけたので、さっき言った通り、カリキュラム委員会ということができますので、確実に学生さんの声の反映できるシステムが今後できていきますので、是非とも声を上げていただきたいと思います。

田中：それでは皆さん、これにて終了です。ご苦労様でした。



対策を語る久住教務委員長



真剣に要望を語る春日君(左)とGOH君(右)

# 理事会・評議員会報告

## 理事会

日時：平成30年10月16日（火）  
午後6時30分から午後7時10分  
場所：医学研究院  
2-2共通セミナー室  
出席：11名（会長、副会長2名、理事8名）  
同席：監事2名、評議員会議長、  
副議長

## 評議員会

日時：平成30年10月16日（火）  
午後7時30分から午後8時05分  
場所：医学研究院  
学友会館「フラテ」大研修室  
出席：52名  
（出席者10名、委任状提出者42名）

同席：会長、副会長2名、理事7名、  
監事2名

### 【協議事項】

1. 平成29年度会計収支決算について  
会計収支状況及び特別会計預金状況  
について説明後、審議了承されました。
2. 平成29年度会計監査について  
会計監査結果について説明後、審  
議了承されました。

### 【報告事項】

1. 評議員、予備評議員の一部交代について  
平成30、31年度の2年間を任期とす  
る評議員、予備評議員の一部交代に  
ついて報告されました。
2. 平成30年度庶務、事業報告について

庶務報告として、本年度の定時総会  
及び第95期生新入会員歓迎会を平成  
31年2月11日（月）に札幌パークホテル  
で開催することが報告されました。  
事業報告として、同窓会新聞の発  
行状況、会員名簿の進捗状況及び同  
窓会新聞の縮刷版の計画について報  
告されました。

3. 平成30年度会計収支中間報告について  
9月末日現在の会計収支状況につい  
て報告されました。
4. 平成31年度以降の会費免除について  
会則第6条第2項に基づき、昭和38  
年卒業の第39期生の会員は平成31年  
度以降の会費が免除となることが報

告されました。

### 5. (その他)

- (1) 医学部創立100周年記念事業について  
同窓会新聞に掲載されている創立  
100周年記念事業基金の卒業期別寄附  
状況について報告されました。
- (2) 2018年度北海道大学医学部、北海道大  
学病院、北海道大学医学部同窓会合同  
新年会及び北海道大学医学部創立100  
周年記念事業後援会総会を平成31年  
1月10日（木）に札幌グランドホテル  
で開催することが報告されました。  
評議員会の冒頭、新任理事のうち  
畠山昌則理事（57期）から就任挨拶  
がありました。

# 告知板

## <教授就任挨拶>

埼玉医科大学国際医療センター臨床検査医学分野 教授



えびはら やすひろ  
海老原 康博(66期)

66期の海老原です。平成29年1月1日  
付けで埼玉医科大学国際医療センター  
臨床検査医学分野教授を拝命致しまし  
た。卒業後は聖路加国際病院、東大医  
科研を経て、現在に至ります。その間米国サウスカロライナ医科大学実験血液学教室  
での基礎研究に従事しました。今まで小児血液医療に従事してきましたが、現在は病  
院の土台を支える一員として、臨床医をサポートするとともに、病院評価につながる  
JCIやISO15189に取り組んでいます。母校の益々の発展を祈念しつつ、今後とも皆様  
のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## <平成30年度 北大医学部 東京フラテ会総会のご案内>

平成30年度の東京フラテ会総会を、  
下記のとおり開催します。同期知友を  
お誘いあわせの上、ご出席くださいま  
すようご案内申し上げます。

日時：平成31年3月16日(土)  
午後5時受付開始  
会場：学生会館 2階  
(地下鉄 神保町駅 A-9出口 1分)  
東京都千代田区神田錦町3-28  
Tel 03-3292-5936  
会費：12,000円、但し新卒から83期  
までは5,000円

講演会：午後5時30分から6時30分203号室  
<講師：北海道大学医学研究院放射線  
医学 教授 白土 博樹先生( 57期)>  
議事：午後6時30分から6時45分203号室  
懇親会：午後7時00分から202号室  
東京フラテ会 会長 畠山 昌則 (57期)

### 【お問い合わせ】

事務局 武蔵村山病院長  
鹿取 正道 (67期)  
Tel 042-566-3111 (代)  
e-mail mkatori@yamatokai.or.jp

## <学内・院内人事異動>

### <辞職>

- 平成30年7月31日 橘 剛(72期) 循環器・呼吸器外科 講師  
(神奈川県立こども医療センター)  
川久保和道(77期) 医学教育・国際交流推進センター 助教  
(マサチューセッツ総合病院 研究員)
- 平成30年9月30日 山田 聡(66期) 循環器内科 講師  
(東京医科大学 八王子医療センター 助教)  
都築 慎也(84期) 公衆衛生学教室 助教 (長崎大学 助教)

### <採用>

- 平成30年8月1日 坂本 圭太(83期) 放射線診断科 特任助教  
平成30年9月1日 横田 卓(74期) 循環器内科 特任助教  
加藤 伸康(82期) 循環器・呼吸器外科学教室 助教  
河野 通仁(82期) 免疫・代謝内科学教室 助教  
平成30年10月1日 清水 康(71期) 腫瘍内科 助教  
菊地 順子(73期) がん遺伝子診断部 特任助教  
市川 伸樹(79期) 消化器外科学教室 I 特任研究助教  
大原 克仁(81期) 腫瘍内科学教室 特任助教  
平成30年11月1日 岩田 玲(78期) 転移性骨腫瘍予防・治療学分野 特任助教  
清水 智弘(83期) 整形外科 助教  
平成31年1月1日 柳生 一自(76期) 児童思春期精神医学分野 特任助教

### <昇任>

- 平成30年9月1日 久保田 卓(70期) 循環器・呼吸器外科 講師  
(循環器・呼吸器外科学教室 助教)  
杉田 純一(77期) 検査・輸血部 講師血液内科 助教  
平成30年10月1日 的場光太郎(81期) 法医学教室 講師 (同教室 助教)  
平成31年1月1日 村尾 尚規(73期) 形成外科 講師 (同科 助教)  
山口 秀(79期) 脳神経外科 講師 (同科 助教)

### <配置換>

- 平成30年10月1日 小野澤真弘(75期) 血液内科 助教 (血液内科学教室 助教)  
平成30年11月1日 岩野 弘幸(会員2) 循環器内科 助教 (循環病態内科学教室 助教)

### <所属換>

- 平成30年10月1日 干野 晃嗣(83期) 先進急性期医療センター 助教 (麻酔科 助教)  
西川 直樹(84期) 麻酔科 助教 (先進急性期医療センター 助教)

# 事務局からお知らせ

## ご寄付の報告とお願い

同窓会事業支援のため、次のとおり  
ご寄付をいただきました。  
平成30年10月24日 26期会様 金70,000円  
以上、ご報告申し上げます。誠に有  
り難うございました。

同窓会では、企業、団体、個人の皆  
様に、同窓会事業支援のためのご寄付  
をお願いしております。

ご寄付をいただいた場合、ご了承を  
得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以  
上のご寄付には、楯または額による感  
謝状を贈呈させていただきます。

ご寄付につきましては、同窓会事務  
局にご連絡ください。

電話 : 011-706-5007  
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

## 会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報掲載されて  
いますので、ご不要になった名簿は適  
切な処分をお願いいたします。ご自身  
で処分が困難な方は、宅配便により同  
窓会事務局へ送ってください。なお、  
恐縮ですが送料は各自でご負担願  
います。

○送付先  
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部  
北海道大学医学部同窓会事務局

## ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では、会員のための「ドクター  
総合補償制度」を創設し、随時募集を行っ  
ています。

現在、本制度には500名近い会員の皆  
様が加入しており、大変ご好評をいた  
だいています。

ドクター総合補償制度には「医師賠償  
責任保険（勤務医向け）」、「医療・がん保  
険」、「所得補償保険」があり、団体割引  
が適用されるので個人での契約に比べて  
割安な保険料で加入することができます。

ドクター総合補償制度につきましては、  
同窓会事務局にお問い合わせください。

電話 : 011-706-5007  
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

## 同窓会費について

### ○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力  
いただきありがとうございます。

同窓会の事業は会員の皆様のお金によ  
って運営されています。今後も意義  
ある同窓会活動を継続していくために、  
会費納入にご理解とご協力を願ひ申  
し上げます。

### ○会費納入は次のいずれかの方法によ ります

①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込  
のいずれかによります。

※詳しくは同窓会新聞に同封される払  
込票をご覧ください。

### ○会費未納者と刊行物の送付

・未納会費が2年を超える会員には、会  
員名簿（同窓会誌）をお送りしません。  
・納入が9月30日を過ぎると、入金確認  
及び印刷部数確定の都合によりお送  
りすることができません。

### ○会費免除者と刊行物の送付

・会則により、卒業後55年を経過した  
会員の会費は、翌年度から免除とな  
ります。  
・38期生は平成30年度から、39期生は  
平成31年度の会費から免除となりま  
すが、免除前に2年を超える未納会費  
があると、会員名簿（同窓会誌）を  
お送りしません。

# 新刊書紹介



**「長寿の嘘」**  
 しばた ひろし  
 柴田 博(41期)  
 ブックマン社  
 ¥1,620

「鬼気迫る警世の書」

表紙がルノアールの「大水浴図」の裸婦群で飾られ、タイトルは「長寿の嘘」となっている。文学青年だった著者にしては、ドキッとするほどの強い表現

ではある。豊富な裸婦群は背表紙に書かれてある「本当は肉食・小太りの人がいちばん長生きだった!」という、著者が最も言いたいことを語るためのよすがであろうし、「長寿の嘘」という表現は、巷に蔓延る健康神話に対する著者の憤りのように見える。

食べ物に関する指標や肥満の基準などの健康指針を安易に決定してはならない理由は、その教えに従って、営々と励んだ真面目な人たちが、長いこと

経ったある日「あれは嘘でした」と言われるような事になっても、もうその時は取返しがつかないということにある。

著者が八十余歳にして、こんな強い言葉どもを吐くのは、健康に関する指針の決め方が、あまりにもいい加減で、このまま放置したのでは、日本人全体の健康が阻害されてしまうという危機感からであろうと思う。

著者がその「嘘」を暴いている健康についての多くの事柄をここに並べ立

てることはしないし、そこは、皆さんに本書を紐解いてもらいたいが、一つだけ挙げさせていただければ、我が国の子どもたちの生下時体重が、減少し続けていることである。若い母親たちの間違った健康管理が、次世代を担う子供たちの健康をむしろみつつあるとすれば、それは恐ろしいことではないか。

(41期 仙道 富士郎)



**「わが国から肺がんや胃がんをなくすために」**

あさか まさひろ  
 浅香 正博(48期)  
 北海道医療大学  
 (ご入用の方は浅香先生までご連絡下さい)

評者の私がかん研究を始めた1950年代、恩師の故武田勝男先生(病理学教授1期生)にお尋ねしたことがあります。「がんは予防出来ないものでしょうか?」。お答えは「がんの予防なんて考えられ

ないね。「タバコが肺がんになることないでしょうか?」。「そんなこというようでは病理学者じゃないよ」。武田先生ご自身が愛煙家でした。

恩師を批判するのではなく、当時はそんな時代だったのです。

世の中は随分変わってきました。日本人の代表的ながんは肺がんや胃がん。その主犯はタバコとピロリ菌。付随的な原因は他にたくさんあると思いますが、少なくともこの2つのがんの原因と

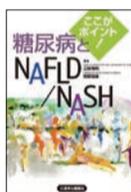
はっきり突き止められました。

著者の浅香正博先生は北大医学部同窓会会長、北海道医療大学学長の超多忙な身でありながら、学生さん向けに書かれた「肺がんや胃がんをなくしよう」をこの度一般市民へもということの上梓されることになりました。時宜を得たまことに結構な企画と思います。

浅香先生の学者としてのご功績は皆さんよくご存じのとおりです。その1つはピロリ菌が胃がんの原因になること

を臨床疫学的に実証されただけでなく、厚労省を動かして除菌の保険適用にご努力され、それを成功させたことです。がん対策にどれだけ大きく貢献されたか計り知れません。普通の学者では出来ないことで、浅香先生はスーパープロフェッサーの証だと北大同窓の一人として大変嬉しく思っております。

改めて本書を心から推薦いたします。  
 (28期 小林 博)



**「ここがポイント! 糖尿病とNAFLD/NASH」**

みよし ひであき  
 三好 秀明(69期)、  
 狩野 吉康(56期)  
 医学と看護社  
 ¥3,780

日本人の3,000万人が脂肪肝、2,000万人が糖尿病(予備軍を含む)に罹患していると報告され、ともに我々にも身近な両疾患は、その発症・進展においてか

なり密接な関係にある。われわれの学生時代には、脂肪肝は癌化しないと教わってきたが、内臓脂肪型肥満や糖尿病などを要因として発生する非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)は非アルコール性肝炎(NASH)に進展し、肝硬変、肝臓がんを発症すること、糖尿病がその進行に拍車をかけることが最近になって色々とわかってきた。NAFLD/NASHに対しても有効な糖尿病

治療薬の登場も契機となり、最近、糖尿病医と消化器(肝臓)内科医両者がこれらの診療に注目し取り組むようになってきたが、残念ながら糖尿病とNAFLD/NASH両方に着目した著書がこれまでにほとんどなかった。北大69期の糖尿病専門医と56期の肝臓専門医が、このたび北大医学部スキー部OBの先輩後輩という関係の中で、この問題に取り組んだのが今回の一冊である。

本書では、最近明らかになってきたNAFLD/NASH発症・進展の機序や検査診断法、最新の治療法などについて書かれているが、多くの挿絵と簡潔な説明によりわかりやすくまとめられている。活字も大きくて見やすく、視力に自信のなくなってきた世代にも優しい書物である。是非、手に取って読んでいただきたい。

(64期 渥美達也)



**「医者がマンガで教える日本一まっとうながん検診の受け方、使い方」**

こんどう しんたろう  
 近藤 慎太郎(74期)  
 日経BP社  
 ¥1,512

医療に関しては相変わらずトンデモ本がたくさんありますが、最近ではエビデンスを重視した内容のものも少しずつ増えてきたように感じています。著

者と同じく北大の同窓生である村中璃子氏の『10万個の子宮』も読みごたえのある本でした。

本書もエビデンスを重視したものになっています。著者は「日経ビジネスオンライン」で、自作のマンガ(!)を使って、医療情報をやさしく解説する『医療格差は人生格差』を連載中です。そのうち、がん検診について解説した部分が1冊の書籍になりました。

内容はというと、「がん検診をどんどん受けましょう!」といった単純なものではなく、PSA検診の問題点や、乳がん検診の通知方法の盲点、がん検診の限界など、耳障りの良くない話題にも積極的に切り込んでいます。

また、村中氏同様に、子宮頸がんワクチンについても解説していますが、特にこの部分に、著者がなぜこの本を書いたのかという意図や考え方が、もっ

とも端的にあらわされていて興味深いです。

がん検診はなぜ受けるのか。膀胱がんなど予後の悪いがんについてはどう考えればいいのか。タイトルからするとマニュアル本かと思いますが、根底には哲学的なメッセージが潜んでいて、読みごたえがありました。

(74期 近 祐次郎)



**「刑務所には時計がない」**

たましろ ひでひこ  
 玉城 英彦(会員2)他編著  
 人間と歴史社  
 ¥2,376

本書は、「大学生が見た日本の刑務所」に関する北大新渡戸カレッジ・フェローゼミ(玉城ゼミ)の活動を通じて、学生たちが刑務所に対する認識を高次へと昇華させていくプロセスを中心さま

とめたものです。

罪を犯した人は有罪となって刑務所に入所しますが、これらの受刑者は“塙の中”でどのような生活を送っているのでしょうか。「衣食住は?」「医療は?」「規律は?」「自由の制限は?」などなど、その実態を知ること、私たち一般人には難しいことです。では、受刑者たちは、私たちが思い描く「監獄」の中に閉じ込められているのでしょうか。「時計」のない刑務所において、日本の

受刑者は全員が「自由刑」に服しています。すなわち彼らは自由を剥奪されたうえ、1日24時間管理され、刑務官の指示で働くだけの「ロボット」になっています。また、刑務所では「時間」の制限だけでなく「空間」も制限されています。

このように、受刑者の時間と空間を制限するという自由刑が日本の刑務所の基本ですが、では人間の自由を束縛するということは?自由が束縛された

人間の尊厳と人権とは?さらに罰とは、罪とは、そして罪を償うこととはどういうことか。

学生たちがこの重い課題にどのように対峙し、止揚し、自分たちを変化させて真実に迫っていったかを本書からかいま見ていただければ幸いです。

(81期 村上 学)



**「北海道大学の挑戦II」**

たましろ ひでひこ  
 玉城 英彦(会員2)他編著  
 彩流社  
 ¥2,160

編者らは2017年5月に、これまでの「新渡戸カレッジ」の取り組みを紹介しつつ、フェローからカレッジ生、さらには広く世の大学生・高校生へのメッセー

ジをまとめて、「グローバルリーダーを育てる 北海道大学の挑戦」(彩流社)を出版しています。「新渡戸カレッジ」では、この本に寄せられた各方面から様々な感想や意見を踏まえながら、さらなる教育プログラムの改善を図っています。編者らは、こうして進化しつつある「新渡戸カレッジ」の現在のかたちと、その新たな挑戦をし続けるフェロー、教員、そして学生の姿を伝えるために、

2冊目の書物「北海道大学の挑戦II」を編集しています。

北海道大学の基本理念に基づき真の意味でのリーダーシップを発揮できる人財の育成を担う新渡戸カレッジのさらなる挑戦とは何でしょうか。

海外留学の体験、卒業生でグローバルな仕事に就いているフェローたちによる指導や交流、日本の刑務所など国内の問題への視点を養うなど、教員や

フェロー、在学生などの言葉で具体的に紹介しています。

本書はこれらの三者のコラボレーションの輝かしい成果です。小さい出版物ですが、全国津々浦々でグローバル社会に挑戦できる人物を育成している大学・機関ならびに関係者にお役に立てるものと確信しています。ぜひご一読ください。

(81期 村上 学)

### 総会、新入会員歓迎会のご案内

#### 同窓会総会

平成30年度定時総会を下記により開催しますので、ご出席くださるようご案内いたします。

日時：平成31年2月11日（月）  
午後5時より

会場：札幌パークホテル 高砂（3階）  
所在地：札幌市中央区南10条西3丁目  
電話：011-511-3131  
議事

1. 協議事項（予定）
  - (1)平成29年度会計収支決算
  - (2)平成29年度会計監査
  - (3)その他

#### 2. 報告事項（予定）

- (1)庶務・事業報告
- (2)平成30年度会計収支中間報告
- (3)その他

総会終了後、平成30年度フラテ研究奨励賞授賞式を予定しています。

#### 新入会員歓迎会

総会終了後の午後6時より、同ホテル（3階）エメラルドにおいて、第95期生の入会歓迎会を開催します（参加費は無料）。

ご参加いただける方は、電話又はメールにより1月25日（金）までに同窓会事務局へご連絡ください。

## お知らせ 医学部創立100周年記念事業 記念グッズのお知らせ

この度、北海道大学医学部創立100周年を迎えるにあたり、北海道大学医学部のアイデンティティを表現した様々な記念グッズの作成準備を進めております。ご贈答や記念品、コレクションとしてお楽しみいただけるようなラインナップをご用意する予定です。詳細については、同封のリーフレットをご確認ください。

また、記念グッズは北大生協医学部店等にて取り扱う予定ですので、本学を訪れた際にも是非ご利用ください。

※店頭では一部取扱いのない商品もございます。

## 北大医学部同窓会新聞縮刷版の発刊について

同窓会新聞は、昭和36年4月に1号を発行して以来、平成10年5月に100号、平成27年1月に150号を発行し、本年1月に162号を発行することとなりました。

本年4月には、医学部が創立100周年を迎えることから、その節目を記念して101号～150号の縮刷版の発刊することとなりました。

発刊に際し、会員各位のご意向を聴取するため、アンケート調査を実施いたしますので、ご協力の程よろしくお願いたします。

同封いたしましたハガキにて回答をお願いします。



創刊号～100号

## 北海道医学会からお知らせ

#### ○北海道医学会ホームページURL

北海道医学会のホームページは下記URLよりご覧ください。

<http://www.hokkaido-med-society.org>

#### ○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者及び本会の目的に賛同される方々には一般会員として、道内の主要医療機関には特別会員としてご参加いただいております。

#### ○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：平成30年は第93巻）
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和41年から実施）
- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

#### ○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学

雑誌」を発行の都度お届けいたします。入会方法、申込書は、本会ホームページ（コンテンツ：入会ご案内）より入手してください。

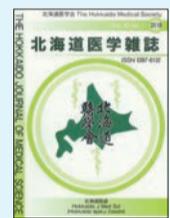
#### ○「北海道医学雑誌」の原稿募集

・募集する原稿は、「原著論文」「症例報告」「総説」「速報」「学位論文」「学位論文の要旨」「BAY（Best Articles of the Year）」「研究会抄録」「談話会抄録」等です。

・「教室だより」「海外だより」等、論文以外の投稿も歓迎します。

・投稿者は北海道医学会会員であることを原則とします。

・投稿規定は、本会ホームページ（コンテンツ：機関誌「北海道医学雑誌」）をご覧ください。



#### ○お問い合わせ先

北海道医学会事務局

電話：011-706-5007

E-mail：digakkai@med.hokudai.ac.jp

## 同窓会費の納入は口座振替で

同窓会費の納入方法は、①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかです。

**特に口座振替は、店頭へ出向く手間が省けます。また、納入忘れがないのでとても便利です。**

口座振替を希望する方は、事務局にお申し付けください。手続きに必要な「預金口座振替依頼書」をお送りします。ホームページからもダウンロード出来ます。必要事項を記入の上同窓会事務局へ送ってください。

電話：011-706-5007 E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

## 同窓会費納入のお願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

## 過年度会費が2年を超える会費未納者と会員名簿の発送について

平成26年度より、**過年度会費が2年を超える会費未納者**には、会員名簿および同窓会誌の送付を停止することになっております。

前回の新聞ですでお知らせ済みですが、**過年度会費が2年を超える会員で、本年度の会員名簿の送付を希望される会員には、平成30年9月30日まで未納会費の納付をお願いしております。**期日以降に納付された会員の方には、印刷部数確定のため、今年度の名簿をお届けすることはいたしかねますので、ご了承ください。

#### ●ご注意ください

#### 【平成30年度会員名簿について】

平成30年9月30日を納付期限としております。

たとえ平成30年度以内(平成31年3月31日まで)あるいはそれ以降に未納額を納付いただきましたも、当年度発行の名簿をお届けすることはできません。

#### 【過年度分の名簿および会誌について】

後日、滞納分を納付されましても、個別発送はいたしません。

## ご逝去者 新聞161号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
平成27年	佐藤重直	30	7月17日	高田恒男	30
	穴田真奈美	78	7月21日	安田隆義	37
			8月26日	折笠精一	38
9月5日	黒田一秀	20	9月2日	折藤良二	専5
10月6日	寺井敦夫	30	9月16日	出口奎	27
平成29年			9月21日	高橋達郎	48
			9月27日	高児玉讓次	36
			9月29日	鈴木勝夫	43
7月20日	山口忠	専4	10月6日	荒谷知壽	37
8月17日	中山睿一	46	10月11日	西信三	42
平成30年	渡邊瑩之助	専4	10月12日	須貝周平	専7新
1月12日	岸本總一郎	30	11月10日	北川永一	専5
3月18日	阿部一治	23	11月16日	越野勇	38
3月24日	伊澤更児	26	11月24日	仁瓶誠	24
3月24日	小玉孝郎	37	12月1日	今敏	32
6月24日	田中宣彦	33	12月5日	荻光	28
7月5日	椎谷龍彦	28			
7月11日	笹川勝次	37			

## 一面の写真説明

### 「旅する氷」

松本 侑希保(98期 医学科3年)

豊頃町で見られるジュエリーアイスの写真です。ジュエリーアイスは十勝川の水が凍って出来た氷が海へ流れ出

た後、波で磨かれながら大津海岸へと打ち上げられることで形成されます。近年、冬の北海道の観光資源として注目を集めています。海面に立ち込める気嵐（けあらし）と共に朝日に照らされ、黄金色に輝く光景は、大自然の神秘を感じさせるものでした。

### 編集後記

あけましておめでとうございます。北海道大学医学部は本年創立100周年を迎え、10月には記念式典が予定されています。「医学部100年記念館」などの記念事業も準備進行中です。同窓生各位には物心両面からのご支援をお願いします。

独特の時代感覚を持っています。4月30日の天皇の退位をもって、30年余続いた「平成」が終わります。この30年間に多くの出来事があり、日本の社会は大きく変化しました。医学・医療についてもわかりです。平成が我々にとってどんな時代であったろうかを振り返り、次の30年、100年を考えるよい機会ではないでしょうか。(55期 山科賢児)

日本は元号を一つの時代区分とする

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。

<http://hokudai-med-dousou.com/news/index.htm>

印刷所 **大日本印刷(株)**

〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号  
代表 (011) 750-2205